

# これからの認知症医療・介護の在り方

社会医療法人財団松原愛育会 松原病院 院長 松原 三郎



厚生労働省は本年6月に「今後の認知症施策の方  
向性について」と題する報告書を発表した。その中  
は、「早期発見早期対応」、「認知症の生活を支える医  
療サービスの構築」、「地域で支える介護サービスの  
構築」、「地域での生活や家族支援の強化」、「医療・  
介護を担う人材の育成」など新しい視点が示されて  
いる。入院をできるだけ避けて地域で支えて行こうと  
するものである。また、認知症治療のために精神科病  
院が担う役割の見直しが迫られている。一旦精神科認  
知症治療病棟に入院すると、入院治療が長期化しが  
ちであるために精神科病院への入院をできるだけ減  
らそうとするものである。方法としては、精神科病院  
に入院が必要な状態像として「対応を工夫しても暴  
力が激しい、被害妄想などの精神症状に基づく拒食・  
拒薬があり、生命に危険が及び薬物療法も不可能な  
場合」と規定することで、入院を抑制しようとするも  
のである。しかし、実際には精神科病院入院が必要  
な人達の病状は様々であり、入院が必要な状態像を規  
定しようとするには無理があると思う。

入院日数は77日であり、次第に短縮する傾向にある。入  
院治療で重要なものは、できるだけ短期間で「認知症に  
伴う心理行動障害(BPSD)」を改善して、地域に戻  
すことである。他方、とびうめ外来では、かかりつけ  
医の先生方から認知症の紹介が増えている。紹介の  
目的を分析すると、37%は認知症の診断を求めるも  
のであり、32%はかかりつけ医での診療と並行して当  
院での外来治療の継続を希望されたものであった(図  
2)。

かかりつけ医の先生方は、認知症の在宅介護の最前  
線にある。時には、急に問題行動や精神症状が出現す  
る場合があり、その解決に困惑することが少なくない。  
このような時には当院のような専門医療機関か  
ら、専門医が現地まで出向く必要がある。また、在宅  
での介護を容易にするために、訪問看護師や介護福  
祉士等から構成される「認知症初期集中支援チーム」  
を派遣して家族介護を支援するシステムが必要であ  
ると考えている。もちろん、入院が必要と判断され  
た時には、いつでも入院医療に変更することになる。こ  
れからの認知症医療は、在宅で支える家族、かかりつ  
け医、そして、ケアマネージャー等、地域スタッフとの  
密接な連携を普段から行うことが必要である。

## 増加するアルツハイマー病(AD)は予防できるか?

今年の4月に世界保健機構(WHO)は2050年  
には世界ではADの患者は1億1540万人に達する  
との見通しを示しています。その半数は日本、中国な  
どのアジア諸国が占め、特に、急速に少子高齢社会に  
移行しつつある我が国においては、認知症患者数の増  
加は大きな社会的問題となってきます。

ていします。さらに危険因子としての疾病として、糖尿  
病、高血圧、高脂血症、うつ病をあげています。うつ  
病は1.9~2.0倍、糖尿病は1.5~1.6倍、高血圧、高脂血  
症1.5~1.6倍とAD発症率を上昇させるとされ、将来  
のADの予防のためにも、現在の生活習慣病の治療の  
重要性を再認識させられます。

2002年時点での厚生労働省の推計では、10年  
208万人、15年250万人とされていましたが、  
2010年の患者数から算出すると2012年介護  
や支援が必要な認知症高齢者は305万人となり15  
年には345万人、20年410万人と急速に増加する  
事が判明し、社会の認知症対策の整備が急がれるので  
す。現在、病状の進行を遅らせる薬が使われています  
が、残念ながらADに対する有効な治療法はありま  
せん。

また、脳病変の程度と症状は一致しないことを示す  
アメリカのNunn Studyという興味深い報告  
があります。脳に高度なアルツハイマー病変があつて  
も、認知症状が認められなかった修道女たちがいたの  
です。彼女たちの生活を考えると、質素な食事、集団  
での、毎日規則正しい生活は認知症にならないため  
の重要なヒントと考えられます。

それなら、ADを予防する方法はないのでし  
ょうか。米国立衛生研究所は、その予防に有効な方法とし  
て社会交流と知的な活動、望ましい体重の維持、運動  
の習慣、果実と野菜の多い健康的な食事、禁煙をあげ

今、私達は肥満に注意して、適度な運動、規則正し  
い生活習慣を作り上げることが現時点での最良の  
AD予防法と考えます。

松原病院 副院長 山田 志郎



## 講演会報告 アメリカにおけるアルツハイマー病の状況 ~アルツハイマー病の母を介護した経験から~



平成24年10月2日、松原病院8階ホールにて講演会が開催されました。講師はアメリカ合衆国オクラホマ医学研究財団(OMRF)の主任研究員デボラ ダウンス先生です。当院の山田副院長が20年前に留学していたときの友人で、アルツハイマー病の原因となる蛋白を抑制するプロテアーゼ等の基礎の生化学研究をされています。

講演会ではダウンス先生がアルツハイマー病のお母様をアメリカにおける老人ホームで介護されてきた家族としてのお話をいただきました。

老人ホームでは、アルツハイマー病の方本人がどのように過ごしたいかを選択し、笑顔で過ごしている写真がたくさんあったのが印象的でした。

vol.11 2012. 12月

目次

特集 「これからの認知症医療・介護の在り方」  
社会医療法人財団松原愛育会 松原病院 院長 松原 三郎

トピック

講演会報告 ...2-3

ピアサポートはくさん 誕生

マルチスライスCT装置導入

第21回松原記念講演会開催

すみれ台デイケア新規プログラム ...4-5

金沢市障害者虐待防止センター

金沢市認知症情報センター

地域連携室NEWS

feature KANAZAWA

瑞宝双光章を受章

主な出来事 ...6-7